

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503916		
法人名	医療法人社団 鈴木内科医院		
事業所名	グループホーム きよたⅡ 1階		
所在地	札幌市清田区清田4条2丁目10-27		
自己評価作成日	平成25年8月26日	評価結果市町村受理日	平成25年12月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170503916-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成25年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今年は、清田中央地区で、清田区のグループホームが主催し、地区担当として、認知症の方の徘徊模擬訓練などを行いました。総勢100名の方が、模擬訓練に参加し、実際に搜索・声かけの訓練をしています。地域住民に、認知症の理解を深めていただきました。
・地域ボランティアの方が、避難訓練に参加して頂くことで、入居者さんとの交流を持つ事ができました。
・今年も国際大学の園芸療法の実習生との交流や、幼児保育科の学生のお話ボランティアを受け入れる事で、地域の若者に広く認知症を理解して頂いていると実感しています。
・併設している鈴木内科デイケアサービスのうたごえ喫茶やコンサートなどに参加し、入居者さんの生活の質の向上に役立っています。・ターミナルケアに取り組み、看護師より尊厳のある看取りについて学ぶ機会があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、34年前から地域医療に取り組んできた医療法人を母体として、地域住民の要望に応じて居宅介護支援事業所、デイケアセンターに次いで開設された。北欧で医師をしていた現理事長を中心に、尊厳のある暮らしと地域に根差した医療を目指して、終末期医療、看取りなど利用者の状態変化に24時間体制で対応し、利用者や家族に医療と介護の両面から安心のある暮らしを提供している。
利用者は地域の老人会に参加したり、地区の文化展示会に作品を出品し、地域と交流している。今年度は清田区のグループホーム地区担当として認知症の「徘徊模擬訓練」を行い、地域住民、ボランティアを含めて総勢100名の参加があった。搜索や声掛けの訓練を行い、認知症への理解を深めてもらうなど地域貢献を行っている。
また、近隣の大学の学生による園芸療法の実習や幼児保育科の学生ボランティアを受け入れ、利用者の話し相手をする事で、若者に広く認知症を理解してもらう機会を作っている。
運営推進会議には、毎回町内会会長、老人会会長などの参加があり、事業所の運営を知ってもらうとともに災害時の協力体制を整えている。事業所では、1・2階のユニットの枠を超えて職員全員で勤務する体制を敷き、職員間の協力体制の構築と支援の充実に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

平成25年度 社会福祉法人 北海道社会福祉協議会

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここが私の家です」という理念には、ひとりひとりの入居者さんが、自分らしく尊厳を持って安心して暮らせる場所を表現している。そして、環境には職員の表情や行動も含まれる事を共有している。	「ここが私たちの家です」という法人の理念がパンフレットに記載され、ホールの壁に掲げられている。理念に基づき、一人ひとりの利用者が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らせるように支援している。会議や毎日の申し送りで職員間で話し合い、共有し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の町内会である、清田第三町内会の定例会への参加、文化展示会への作品の展示を数年間継続している。今年は、新たに清田自治会との行事に参加している。	毎月行われる老人会への参加、文化展示会への作品の出展、区民センター・老人福祉センターの行事に参加している。併設のデイケアセンターで開催された歌声喫茶やコンサートに参加したり、近郊の大学から学生ボランティアや園芸療法の実習生の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	清田区グループホーム管理者会主催による「徘徊模擬搜索訓練」に担当事業所として参加し、100名の地域の住民が、「サポーター研修」を受講し、搜索訓練・声かけを実践、認知症の人の理解や支援を実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に、御家族や地域の方々に頂いたご意見をもとに、「避難訓練カード」の作成をした。避難訓練時に地域ボランティアの方が、本人確認を行うために活用したい。	年6回運営推進会議を開催している。できるだけ多くの家族の意見を聞けるように、家族参加の行事に併せて開催している。町内会会長、地区老人クラブ会長、地域包括支援センター職員、消防署職員などが参加している。昨年は話し合いの中で消防、家族、地域住民の意見をもとに「避難訓練カード」を作成し、避難時の本人確認のために活用した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に対する質問は、介護保健課との連携をとり、また空き状況の連絡などを地域包括支援センターに連絡することで、速やかに各事業所に伝わり、新しい入居者の決定につながっている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、事業所の取り組みを伝えるとともに助言を受けている。介護保険に関する質問などで、介護保険課と連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵を開ける事で、入居者さんの身体拘束をしないケアを実践している。また、ベットの柵の使用についても話し合う機会を持ち、会議などでも常に身体拘束の兆候はないのか話し合っている。	玄関の施錠は夜間帯のみ行い、身体拘束をしないケアを実現している。会議や勉強会では、身体拘束を行っていないか話し合っている。身体拘束についての外部研修を受けるとともに、年1回内部研修を行い全職員で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止の研修会に参加し、その内容をホーム内で研修会として共有している。また、日頃から、入浴時など身体の変色の観察をし、虐待の兆しを早期に発見できるよう、常に変化を観察し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	札幌市の管理者会の研修会に参加し後見制度の理解を深めている。現在、2名の成年後見制度の利用があり、関係者から制度の情報を聞く機会もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書や契約書について説明し、質問を受けている。できるだけ、見学して頂き、理解を深めて頂くよう支援している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に日常の様子をお話し、御家族の要望にも耳を傾けるようにし、必要であれば、苦情・要望の記録を取り、職員間で把握している。	家族には、日常の来訪時の他、毎月1回預り金の確認のために訪問した際に日々の様子を話し、要望や意見を聞く機会を設けている。玄関に意見箱を設け、意見・苦情の把握に努めている。家族へのアンケート調査は年2回行事時に行い、意見を反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回の代表者と職員が話し合う機会を設け、意見を反映する機会がある。また、管理者は普段から、職員の意見に耳を傾け、必要であれば会議で話し合うようにしている。	年1回代表者と職員が直接面談し、職員の話聞き意見を反映する機会を設けている。月2回のホーム会議や毎日の申し送り時に管理者と職員で意見や提案をし、話し合っている。職員の要望を取り入れた勤務体制を敷き、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者より、長期休暇を取るようすすめられ、仕事以外のゆとりの時間を持つ事が良いケアにつながるという職場環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	清田区のグループホーム管理者会主催の介護研修を始め、虐待防止の研修、実践者研修を毎年経験を積んだ職員に受講してもらい、職員の質の向上に努めている。全員、介護福祉士を目指している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清田区グループホーム管理者会主催で、研修会や交流会などを行っている。今年は、徘徊模擬訓練の実施をし、さらに同業者とのコミュニケーションが深まっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期から、ご家族にセンター方式の記入をして頂き、ご本人とご家族の思いを把握している。サービス開始時は、個別対応をし、ご本人の意向を取り入れ、その方に寄り添った支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には、ご家族からの希望や要望をお聞きし、落ち着くまでは、ホームでの生活をお電話等で報告し、ご家族に安心して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時に、ご家族のご希望やご本人の嗜好をお聞きし、その方の今までの生活を継続出来るように、他のサービスも含めて支援します。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護をする関係だけではなく、ある時は、人生の先輩として相談したり、一緒に考える時間を持ち、暮らしを共にし寄り添った関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が希望した事をできるだけ実現するために、ご家族の意向も含め、冠婚葬祭への職員の付き添いを実現し、共にご本人を支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が継続してお墓参りや、町内会へ参加など、できるだけ馴染みの関係を継続出来るように支援している。	利用開始前から地域に住んでいた利用者が多いため、本人が大切にしてきた墓参りや町内会・老人クラブへの参加、友人の訪問などできるだけ馴染みの関係を継続できるように支援している。電話や葉書なども利用して関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段から利用者同士の関係を把握し、コミュニケーションが難しければ、職員が仲介するなどして、孤立しないように支援し、自然に利用者同士が関わられるように支援するよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、年賀状が届いたり、相談の電話には出来る範囲で丁寧に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、ご本人の希望や意見などを生活の記録に記入し、御家族とも相談しながら実現している。言葉が困難な方には、仕草や表情から、読み取るなどし、職員で会議に話し合う機会を持っている。	日常の会話から、本人の希望や意見などを生活の記録に記入し、家族とも相談しながら要望を実現している。訴えることが困難な利用者には、表情や仕草から要望を読み取るなどしている。ホーム会議で全職員が話し合い把握できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族の記入したセンター方式をもとに今までの生活の把握をする。その後ご本人との会話などから、馴染みの暮らし方や落ち着ける環境をつくり、サービスづくりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の記録から、一人一人の一日の様子や、心身状態などの状況を把握して、できるだけその人らしい生活を継続出来るように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が、一人一人の現状についてモニタリングを行い、現状を把握し、ご家族の意見も取り入れ、ホーム会議で職員と話し合った上で計画作成者が現状に即したケアプランを作成している。	職員2名で利用者3名を担当する体制を取っている。各担当者がモニタリングを行い利用者の状況を把握し、本人や家族の意見も取り入れて、利用者が自分らしい生活を送れる介護計画を作成している。計画はホーム会議で全職員で話し合ったうえで、基本的には3ヶ月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を生活の記録に記入し、ご本人の言葉や気づき等を大切に、会議で職員間で話し合い、ケアの実践やケアプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望に沿って、必要であれば、お墓参りや結婚式などの介助を行い、希望を実現出来るよう柔軟な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣大学の園芸療法の実習生を受け入れたり、併設のデイケアの各種コンサートにも参加している。歌が好きな方は、清田区民センターのうたごえ喫茶にも参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や御家族の希望がある場合は、病院への情報を提供するなど、併設された医院と連携して、ご本人に適切な医療を支援している。	併設された医院と連携し、月2回の訪問診療と必要時に随時往診がある。利用者や家族の希望がある場合は、病院への情報提供や、家族の協力の下でかかりつけ医を受診するなど適切な医療の支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携時に、普段の状態や変化を伝えて、体調の変化に早期に対応している。必要であれば、医師に相談し、随時適切に受診や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ご本人の状態を情報交換し、できるだけ早期に退院できるように病院関係者と連絡を取るよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	水分摂取や食事が低下してきた方の御家族に、早い段階で終末期のあり方について医師と話し合いをしている。御家族に看取りの同意を頂いて、方針の共有をしながら実施している。	終末期のあり方については、早い段階から院長も参加して家族と話し合い、事業所での可能なケアや医療について説明し、家族の意向を聞いて支援している。看取り介護を行う場合は、家族から同意を得ている。ターミナルケアについて看護師から指導を受け、全職員が統一したケアを行える体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、AEDを含む普通救命救急Ⅱを受講し、全員が対応できるように努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災は、避難訓練を通して地域ボランティアにも協力してもらっている。町内会館や小学校が待機場所になり、災害時の食料の備蓄も行っている。	消防署や地域ボランティアの協力のもと、日中・夜間を想定した避難訓練を行っている。消防署から火災の際の対応や職員の連携のとり方、避難経路などの助言を受け、確認し改善を重ねている。	地震、落雷、風水害など、火災以外の予期せぬ自然災害を想定し、停電時の照明や防寒対策、避難後の家族への連絡方法など、具体的な防災対策を期待する。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム会議などで、その人らしい暮らしについて、考える機会をもうけ、一人一人を尊重した対応に努めている。	ホーム会議などで、人格を尊重し一人ひとりに合った声掛けなどを職員全員が共有して対応している。日々の申し送りでも、普段の声掛けを振り返っている。昨年「尊厳ある暮らしを考える」というテーマで各職員がレポートを作成している。	個人台帳などは適切に管理されているが、玄関の棚に面会簿があり、訪問した家族の氏名が列記されるようになっている。プライバシー確保の意味から、他人の目に触れないような工夫を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の言葉を記録することで、今の思いや希望を拾い上げて、できるだけ実現できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の家に居るように、安心できる空間を考え、その人らしい生活とは、どのような暮らしなのかを考えて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に、本人の希望する衣類の用意や、カットの希望があれば、その方の希望する美容室を利用できるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや盛り付け、おやつ作りなど、その方に合わせた活動を用意し、職員と一緒に楽しい時間を過ごすように支援している。	料理の下ごしらえや盛り付け、おやつ作りなど利用者に合わせた活動を用意し、楽しい時間を過ごせるよう支援している。献立の作成は外部委託であるが、行事食などは食材係が利用者の好みに合わせて献立を決めている。嚥下困難な利用者には、看護師の指導のもと、ミキサー食、とろみ食など一人ひとりに合わせて調理を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるメニューで、定期的な体重管理をし、増減のある場合は、食事量や内容に工夫している。水分量は記録して、問題のある場合は医師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけや誘導をし、できるだけ自力で行うよう支援している。必要な方は、定期的に歯科衛生士の口腔ケアの指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックから、その方の排泄の間隔を知り、適切なトイレ誘導でできるだけ汚染を軽減する努力をしている。	排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握して、プライドを傷つけないよう配慮し、声掛けやトイレ誘導を行っている。失禁の少ない方等には排泄介助を見直し、リハビリパンツやパットの使用を廃止し、自立排泄ができるように支援している。看取りの方にはスウェーデンの褥瘡のできにくいおむつを使用するなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトなどの乳製品を摂取し、水分量を確保してし、排便を促すよう支援している。腸の働きが活発になるように、マッサージや運動を進めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週に2回の入浴を行う。その方のニーズに合わせて、入浴することで精神状態が希望が安定する方は、一日おきに入浴している。	週2回の入浴を基本として、体調・要望に添ってその都度対応している。入浴することで精神状態が安定する利用者は一日おきに入浴できるなど、個々に合った支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の方など、身体状況に合わせて、午前と午後で休息の時間を設けている。夜間も安眠できるように、温度や湿度、明かりなど適切な環境を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬作りに関することで、職員一人一人が服薬への理解を含めている。会議などで、薬の副作用などの話し合いをし、転倒の危険や体調の変化を観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別のレクリエーションでは、職員も同行して御家族と外出したり、お墓参りに行ったり、希望に合わせて買い物、外食など、その方に合った楽しみ事を支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望から、札幌ドームへ野球観戦や、神社へお参りなど、お孫さんの結婚式に一緒に参加するなど、一人一人にあった外出先を実現している。	本人の希望を把握し、家族と相談し協力しながら一人ひとりに合った外出を支援している。買い物やコンサートの他に、札幌ドームへの野球観戦や神社へのお参り、墓参り、孫の結婚式に職員も一緒に参加するなど、普段行けないような場所にも行けるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご本人は難しくなっているが、ご本人の所持するお金がある事を説明し、使用できることを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ホームの電話を使用して、自由にお電話して頂くよう対応している。御家族からプレゼントが届いた場合は、ご本人からお電話でお礼を伝えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、エアコンや加湿器を設置し、過ごしやすい環境にしている。居心地がよくなるような音で音楽をかけたり、風を通すために空気の入替えなどに注意している。窓からは、季節を感じる事ができるような庭や花が眺められる。	庭には園芸療法で植えた花が季節ごとに咲き、玄関や居間には季節感のある装飾を飾り、四季を感じられるように工夫している。共用空間にはエアコンや加湿器を設置し、室温・湿度などに気を配り、快適に過ごしやすい環境にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時、少人数の空間、全体でレクリエーションなど、そのときの状況に合わせて、空間を設定できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの思い出のある家具、ご本人が趣味で作った作品、御家族との写真、その方の思い出がよみがえるような環境で、安心して過ごして頂けるよう配慮している。	居室には、自宅で使い慣れた愛着のある家具や家族との思い出のある写真、趣味で作ったパッチワーク、刺繍、習字の作品などを飾っている。利用者にとって自分の部屋として居心地良く安心して過ごせる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人ができるだけ自立出来るように、トイレの場所が分かる工夫や、安全に歩けるような手すりなどの環境整備などに工夫している。		